研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-139		21-308	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

The use of N-acetylcysteine in the prevention of hangover: a randomized trial
二日酔い予防における N-acetylcysteine の使用：無作為化試験

執筆者

Veronica Coppersmith [1], Sarah Hudgins [1], Jill Stoltzfus [1], Holly Stankewicz [2]

掲載誌

Sci Rep. 2021 Jun 28;11(1):13397. doi: 10.1038/

キーワード	PMID
二日酔い、NAC,　アルコール中毒	34183702

要　旨

アルコール中毒による二日酔いは、全身の不快感や仕事上の欠勤から、症状緩和を求める患者の救急外来受診に至るまで、さまざまな悪影響を及ぼす可能性がある。本研究の目的は、低用量（600～1800 mg）の N-Acetylcysteine（NAC）の二日酔い症状の緩和に関する効果を対プラセボで評価することである。本試験は、呼気アルコール濃度（BrAC）が 0.1g/210L となるようにビールを摂取した 49 名のボランティアを対象とした無作為化二重盲検プラセボ対照クロスオーバー試験である。参加者は 2 回に分けて面談を行い、その際に NAC またはプラセボのカプセルを投与された。2 回目の面会では、反対側の治療が行われた。参加者の酩酊と治療の翌朝、二日酔い症状の主観的変化を調べるために、Hangover Symptom Scale Questionnaire が実施された。データは、NAC 使用時の参加者の二日酔い症状の重症度をプラセボと比較し、自己管理で分析された。二日酔いの総スコアの一般的な分布に有意差は認められなかった（P = 0.45）（NAC=10、プラセボ=13）。また、特定の二日酔い症状の一般的な分布にも有意差は認められなかった。しかし、性別に基づく二日酔いの差の合計スコアの一般的な分布では（P = 0.04）（女性 - 3.5；男性 2）、特に吐き気（P = 0.05）および脱力（P = 0.03）で有意差が見出された。一般的な二日酔いスケールスコアに差は見られなかったが、本研究は、女性参加者が NAC 使用後に二日酔い症状を改善するという、性別に特有の感受性を示唆するものであった。